

AMCoR

Asahikawa Medical University Repository <http://amcor.asahikawa-med.ac.jp/>

看護研究集録(2012.09) 平成21年度:42～43.

感染予防行動獲得に向けプリパレーションを用いた発達段階別介入の検討

川合二美子、塩谷今日子、澤田みどり

感染予防行動獲得に向けプリパレーションを用いた発達段階別介入の検討

4階西ナーステーション ○川合二美子、塩谷今日子、澤田みどり

キーワード：感染予防行動、プリパレーション、発達段階

I. はじめに

血液疾患に罹患した児は、免疫機能低下から感染予防行動獲得が必須であり、その介入方法の検討が必要となる。楢木野¹⁾らは「一般に経験的知識に基づき出来事や簡単な説明を理解できる子供にはプリパレーションを行うべきである。また親に対しては、プリパレーション過程での協力者として子供を支援してもらう必要がある」と述べている。

今回各発達段階にある児と家族を対象にプリパレーションを用いた介入を行い、感染予防行動獲得に至った事例から明らかになった結果を報告する。

II. 研究目的

各発達段階にある児の、感染予防行動獲得へのプリパレーションを用いた介入の要点を明らかにする。

III. 研究方法

対象：感染予防行動獲得が必要な4人の児と家族

期間：H18年7月～H20年9月

方法：介入した結果を比較・質的分析

IV. 倫理的配慮

研究目的とプライバシー保護、また自由参加であり、不参加による不利益が生じない事を、書面と口頭で説明し研究協力と結果公表の同意を得た。A 医大病院の許可を得た。

V. 結果

表1 介入一覧

	模倣	動機付け	内面化	自律への支援
A	幼児前半 対象：身近な人(母・姉)	姉がモデルのDVD	キワニストールに自分と同様の処置を行う	褒める：大切な人から賞賛を得る
B	幼児後半 対象：母	シール表	視覚教材：グリッターバッグ・キワニストール	認める：大切な人から賞賛を得る
C	幼児後半 対象：母・学生	シール表 学生の参加	視覚教材：アニメキャラクター	認める：大切な人から賞賛を得る
D	幼児後半 対象：母・看護師	シール表	視覚教材：紙芝居・身体図	認める：出来た事を褒める・看護師に見てもらう

VI. 考察

幼児期前半は模倣が学習の手段となる時期である。鈴木²⁾は、幼時期前半の子供の発達特徴とプリパレーションについて「母親は彼らを生活につなげてくれる重要な他者であり、この時期の子どもへのプリパレーションは、母親への分かりやすい説明と彼女の気持ちにそったケアを最優先させることである」と述べている。処置前に母と児にキワニストールを使用し繰り返し説明を行ったことで、その意図を母が理解。児が楽しく模倣できるよう母がタイミングよく働きかけてくれたことから、児は母を安全基地とし、感染予防行動を自身の生活の一部として取り入れる事が出来た。処置の意味を理解できない幼児期前半の児にとって、身近で大切な人がプリパレーションを理解し実践する。それを模倣する事がプリパレーションとなり、行動獲得につながったと考える。

幼児期後半は具体的思考の段階であり、現実と結びつけるような説明で、理解を得て行く時期である。視覚に訴え教材を使ったプリパレーションは、嫌な処置であっても「ばい菌をやっつけるため」「熱があがらないように綺麗にする」など自身が行っていることを現実の処置と結びつけ、治療、予防の理解を促す事に役立ったと推察する。

各発達段階にある児への動機付けは、興味や関心の持てるものの選択と、成果の見える介入方法が有効である。他者からの賞賛を得て自主性が育つという発達課題に沿い、出来たことを褒める、認める等を繰り返すことも、児が自律に向かう支援になったと推察する。

VII. 結論

1. 模倣の対象者

- 1) 幼時期前半は、模倣対象にプリパレーションを十分理解した身近な人が望ましい。
- 2) 幼時期後半は、模倣対象を特定しなくても行動化につながる。

2. 内面化

- 1) 幼時期前半は、自己の体験を、代用品を用い同一化することで行動化につながる。
- 2) 幼児期後半は自己の体験を理解するために、視覚教

材を使用したプリパレーションで行動につながる。

3. 発達段階を考慮した行動獲得へのプリパレーションは効果的であった。
4. 自律支援には、認める、褒める等「嬉しい体験がポイント」

引用文献

- 1) 榎木野裕美, 高橋清子: 子どもに正確な知識をどのように伝えるか, 小児看護, 25 (2), P194, 2002.
- 2) 鈴木敦子: 子どもにとってのプリパレーションの意味, 小児看護, 29 (5), P538, 2006.